

東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

2015年2月号《No.8》

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-20-102

TEL 042-577-6181/FAX 042-577-5574

今月の聖句

神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。

+コレヘトの言葉 3章11節

主題

国際会長	Isaac Palathinkal	「言葉より行動を」「今すぐやろう！」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
東日本区理事	田中 博之	「誇りと喜びを持って」
あずさ部長	望月 勉	「スピードをもって前に進もう」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指して」

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさとう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

1月出席率73% 在籍者11名 出席者8名 メネット0名 ゲスト0名

筑波にて

山口 直樹

筑波にある「地質標本館」、「サイエンス・スクエアつくば」と「筑波宇宙センター(JAXA)」を見学する機会を持てた。古い石の展示より、絶対今の科学の最先端を行っているロケットやロボット技術に関心を持っていたが、見学を終えてからの感想は圧倒的に地質標本館に軍配が上がった。もちろん最先端の技術やこれからの夢・可能性も興味深かったのは事実。

しかし私がひねくれているのかもしれないが、ロケットや宇宙の話聞いて、だからどうなの。ロボットなど最先端の技術革新の話聞いて、何のための技術かなと今ひとつピンとこなかった。人とかかわりで感じられるぬくもりが感じられなかったためか？

地質標本館では今自分が生きている地球、立っている地面の成り立ちなど、古代から現在につながる話。もちろん東日本大震災や最近の異常な自然現象を感じているから、余計に身近に感じたのかもしれない。やはり手で触れるところのこと、肌で感じられることに温かみを感じたところであった。

1月例会の様子

1月例会は例年どおりに在京ワイズ合同例会に参加合流でした。

日時 1月10日12時30分 場所 桜美林大学 多摩アカデミーヒルズ
司会 井川 茂夫ワイズ（東京コスモス） 奏楽 戸坂昇子ワイズ（東京YMCA）
聖書 テサロニケの信徒への手紙 5章16～18節

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

奨励 「喜びを持って」 桜美林大学学長 三谷 高康牧師（日本キリスト教団）

居酒屋等で注文すると若い店員が「喜んで」という声が返ってきます、その居酒屋は若い店員の企業努力用語の合唱で、私は違和感というか居心地の悪さを感じます。

岩波国語辞典によると喜びは嬉しい気持ち。楽しみは喜ばしく嬉しい面白い気持ちとあります。

この二つは言い換えることは出来ますが同じでしょうか、言い換えられないのがあります。喜んで、には他者のためにする犠牲、分け与える、覚悟する、の思いに繋がり、楽しむには自分の欲望を満足させるにつながります。（日ごろから「がんばります！楽しみます！」と決意表明をする芸能人やスポーツ選手の一方で「東北被災地に力を与えます」という言葉に割り切れなさはこれだった。）

桜美林大学創始者清水 安三は1917年日本人初の宣教師として中国に渡り在中日本人に向かって宣教活動を始めたが、中国の土になるのだと1925年夫妻は北京朝陽門外の貧民街にその種を蒔いた。この年は大飢饉が起り悲惨な状況だった。夫妻は近郊から集めた799人の子供たちを土地の協力者と共に飢餓から救いだし一年後には親元に帰し、親を無くした子供には養子縁組をした。

その間に清水の眼に映り動かしたのは家族の命をつなぐため体売る娘たちの姿だった。

このままだと生きてゆく道は限られてしまう、この娘たちには教育が必要だ、それと自立できる技術を身につけることが必要だとラーン アンド レイバーがモットーのミッションスクールを立ち上げた。そしてそこで学んだ刺繍は十年後地場産業となった。

日本の高等女学校として認可され日本からとりわけ朝鮮から多くの入学があった。こんなエピソードがある。文化を尊重し彼女たちを日本名ではなく本来の朝鮮名で呼んだ。遠足をしたときのこと、白い花を挿して何という花かと尋ねた、首を横に振る生徒たちに「これはむくげといって朝鮮の国花だ、こんな美しい花をもつ国に誇りを持って、将来植民地から開放されるときが来る、母国を愛し国づくりに役に立つようにしっかり勉強して欲しい」と語り、口癖の「汗も涙も血をも打ち込んで」は「喜んで」ではないだろうか。

1976年桜美林高校は甲初出場で優勝しました。清水 安三は創部当時から優勝するといひ続けていた周りの人は「またほら安のほらだ」と言っていたが本当に優勝した。ほらはほらでなく夢、夢は現実になる、「夢をみよ、夢はかなうものぞ、うそと思わば甲子園に聞け」今も安三の言が言い伝えられている。

大正デモクラシー期の代表的論客長谷川如是閑に私は20歳で小学校を30歳で中学を40歳で高等学校を50歳で大学を創ると明言し現実化した。（楽しんで喜んでの先にあるんだ！）

教育雑誌からの貴方のモトを一言でと問われ、二言で言うと「生徒に夢を抱かせよ、教育は結局愛である、人に尽くし続ける愛である、喜んで愛し続ける愛である」我が校はその精神を引き継いでいる。三谷牧師は「2015年どのような時代になるのか先が読めないといわれているがテサロニケの指標に基づいて、私たちは喜んで人々に仕える年にしたいものだ。」と清水 安三の生涯変わらぬ生き方を通じて語られた。

てさぐりモンゴル付き合いのこつ

勉強会の予習、肌から知りたいと思い、せしめたウオッカ・チンギスゴールドの口あたりの良さと図書館からCDを2枚借り音楽に浸った。

1曲目からびっくりした、初め縦笛だと思ったが、なんと歌！歌詞なしで同時の二つの音を出している、のど笛。気付いた！名器といわれるヴァイオリンと同じで、すぐそばで聞くとズーと言われる低音が出ているのを聞くことが出来る、名器は遠鳴りつまり遠くまでクリアに響く。全く広大な草原に生まれた理にかなった歌唱ホーミーだ。

日本民謡のこぶしを思い出させる節回しがそこここに出てくる長歌オルティンドーは愛馬をテーマにしたものが多く馬の背に揺られて尾てい骨をゆすりあげられる大波のようなうねりを感じる。

日本民謡は喉に力を感じるがモンゴルの歌は共鳴を感じ「が」という音は鼻濁音だった。わけも無く懐かしい感じがする、我々の祖先はここから来た感じ、司馬遼太郎 モンゴル紀行、再読しよう。

宮内会長のモンゴルは中国とロシアにはさまれた日本の4倍の面積に都市と思われるものは2つ、から始まり、複雑な国際関係大国の力関係に翻弄され1911清朝から独立宣言。首都ウランバートルは赤い英雄という意味でロシアの影響の痕だろうか。産業はモリブデン銅牧畜。国民のGDPは58億ドル日本で一番低い島根県の4分の1。1ドル1600ツブリックビール1本1700ツブリック、ちなみにビールウオッカ、馬乳酒（期間限定どぶろく）があるがあまり飲酒の習慣が無く我々も若者の前での飲酒は控えた。モンゴルYsとのDBC締結とチャーターナイトの様子メンバーのプロフィールなどの話し、得に響いたこと、ユースの若者たちの地平線を見据えるまなざし、将来の自分の国の姿とその国創りへの思いはとどまる所を知らなかったという。まるで明治維新の若者像と重なった。チンギスハーンなしでは夜も日も明けない国、自分たちの最高のシンボルが彼らのプライドを支えているとおもった。



原村こひつじ幼稚園中村園長先生からこひつじ幼稚園の新聞記事切り抜きが届きました。

原村弘沢、こひつじ幼稚園（園児60人）は毎年恒例の七草がゆをお昼に食べて健康な一年を祈り（こ）ひつじ年をスタートさせた。七草粥は園児たちが丹精込めて育てたコメを釜に入れ、年長児たちがカブや大根など野菜刻みを担当。

園児たちが育てる稲の豊作を祈る田作り、長寿のシンボルのえび、ぐんぐん成長するたけのこ子、子孫繁栄を祈る数の子などの御節料理に用いられる12種の食材に込められた願いを学んだ。

園庭の炊き上がったかまどの前に全員集まり「七草ナズナ唐土の鳥が日本に渡らぬ先にストント

ン・・・」と七草の歌を歌いながら、仕上げに入れる七つの薬物を刻む先生の包丁さばきのリズムを取り、粥と混ぜ合わせ、楽しい正月を過ごせたことに感謝し、おわんたっぷり盛られた熱々とろとろに歓声があがった。

<西東京 YMCA 便り>

村山 達哉

新年があけ、あっという間に 2 月となりました。まだまだ寒さ厳しい毎日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。体調など崩されませんようご自愛ください。

さて、年末に実施いたしましたキャンプも、無事に終えることが出来ました。感謝いたします。参加する子どもたちはキャンプを通して、スキーの上達はもちろん、仲間との関わり、リーダーとの関わりの中で変化が見られます。一方で、たくさん子どもたちとの出会いの中で、ボランティアリーダーたちにも多くの学びや成長の機会が与えられました。彼らは、数日間のプログラムに向けて、約 2 カ月前から準備をし、トレーニングを重ね、ミーティングでは様々に意見交換をしていきます。その準備の間には、それぞれの価値観の違いから、時に激しく意見がぶつかり合うこともあります。子どもたちにとってよりよいプログラムとなるよう、同じ方向を向いて進んでいきます。そういった準備の期間においても、ボランティアリーダーたちは変化をしていくのです。冬のキャンプを終え、すでに春のプログラムに向けての準備も始まりました。また新たなチームでキャンプを作り上げていきます。プログラムを支える多くのボランティアリーダーをぜひ応援下さい。

また、西東京センターでは 2 月、3 月に障がいをお持ちの方々を対象としたスキーキャンプも実施されます。マンツーマンを基本としたスキー指導では、当然、特別なサポートによる指導が必要となります。そのため、このようなキャンプに参加するリーダーたちは、障がい児・者を想定したトレーニングに参加し、いかに安全にスキーを楽しんでもらうか、学びながら準備をします。様々な支援が必要なキャンプですが、今年も多く参加者と一緒にスキーや雪遊びを通して楽しさや喜びを分かち合えること、また実施に向けたトレーニングで得たことが、実際の現場に活かされることを願っています。

今月もお支え、よろしく願いいたします。

<西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 2/3 スプリングプログラム申込受付（会員のみ優先受付）
- 2/5 スプリングプログラム申込受付（一般受付）
- 2/6-8 障がい児・者及び健常児対象スキーキャンプ「チャレンジスキーキャンプ」
- 2/15 小学生野外活動「ロビンソン」2月例会
 幼児野外活動「にこにこ」2月例会
 知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いつみの会」2月例会
- 2/21-22 発達障がい児 グループ活動「Smile」2月例会（妙高一泊会）

2 月第一例会は第二水曜日が祭日のため一週間繰り上げの 2 月 4 日 19 時、西東京センターです。

司会 清水ワイズ 聖書・祈祷 山口ワイズ 受付 渡邊・山本ワイズ
卓話 海と環境（船舶よもやま話）東京西クラブ会長 木原 洸氏 ホーバークラフトの生みの親に
南極観測船の姉妹船になぜホーバークラフトの貨物船が無いのか、聞きくのがとても楽しみです。